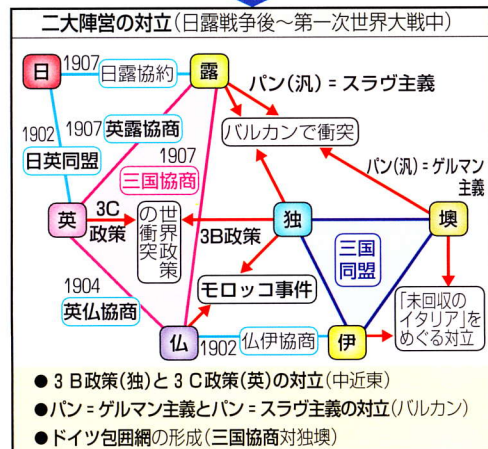
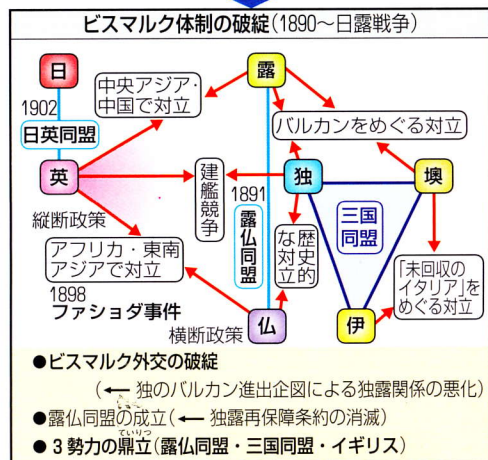
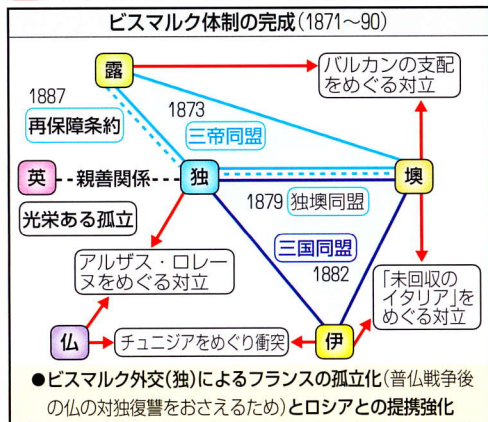
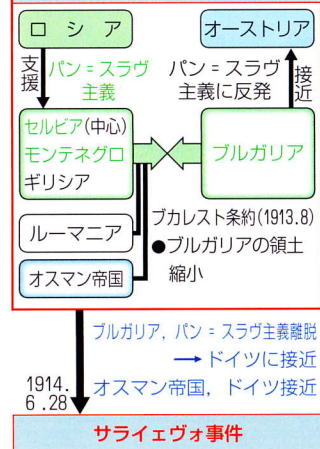
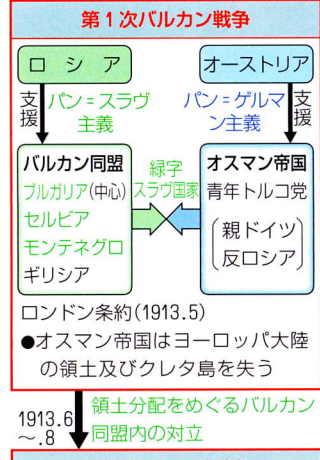
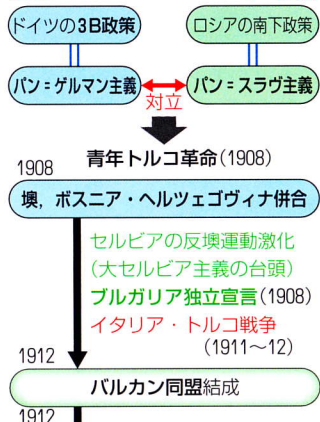


1 帝国主義時代の国際関係



2 バルカン問題 (P181 地)



A オーストリア・バルカンの民族分布

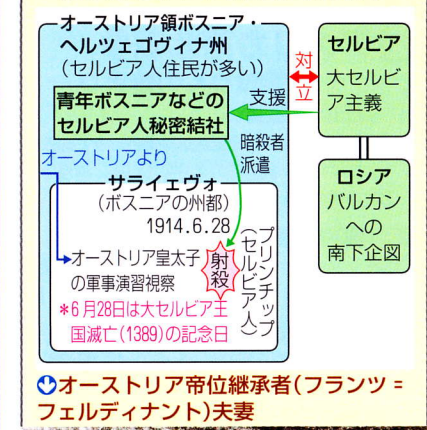


B バルカン戦争 (1912~13年)



●バルカン問題にふたをしようとする列強
●解説 オーストリアによるボスニア・ヘルツェゴヴィナ併合(1908)は、大セルビア主義をもって両地方の支配を企てるセルビアとの間に激しい対立を生んだ。そこにパン=ゲルマン主義・パン=スラヴ主義をそれぞれ掲げるドイツ・ロシアのバルカン政策、さらにドイツの3B政策・イギリスの3C政策といった世界政策が大きく影を落とし、バルカンは帝国主義列強の政策が衝突し、「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれた。

サライェヴォ事件の背景

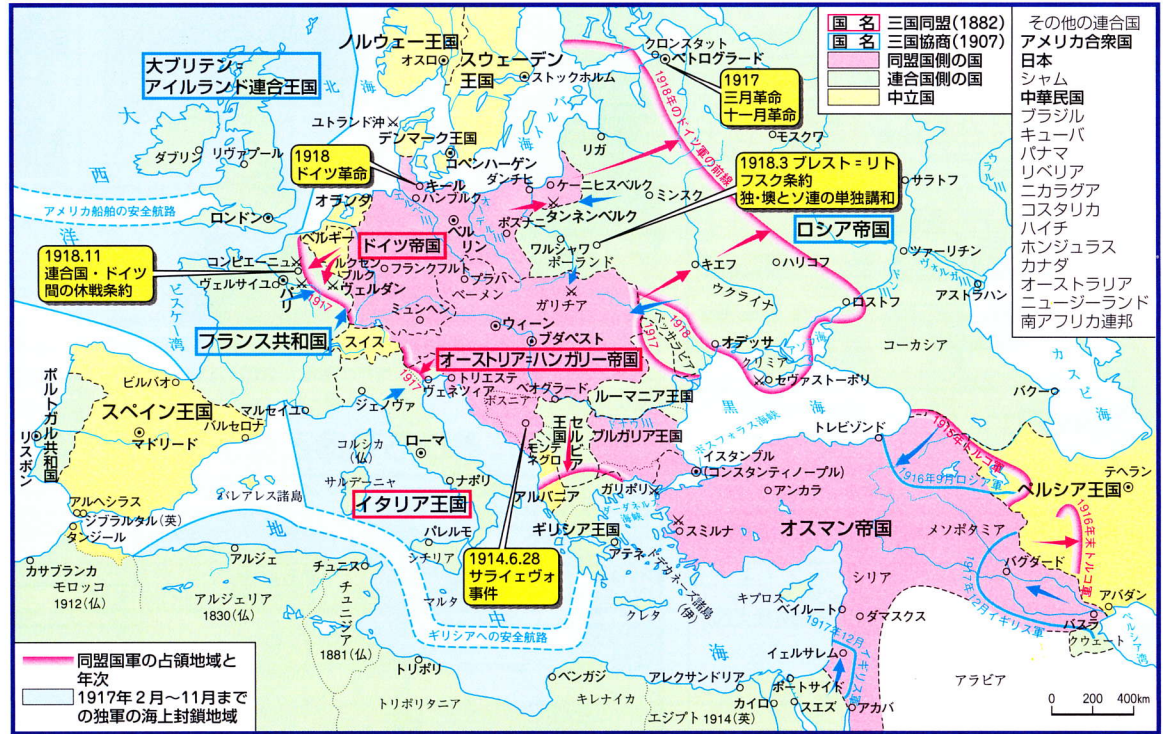


③ 第一次世界大戦の経過 (P.200)

■年/赤字：日本の動き

大戦前	1882 三国同盟(ドイツ・オーストリア・イタリア) 1899 第1回万国平和会議(ハーグ) 1907 三国協商(イギリス・フランス・ロシア) 1912 第1次バルカン戦争(～13) 1913 第2次バルカン戦争
ドイツの攻勢	1914. 6. 28 サライェヴォ事件 . 7. 28 オーストリア、セルビアに宣戦→第一次世界大戦の勃発 . 8. 1 ドイツ、ロシアに宣戦 . 8. 3 ドイツ、フランスに宣戦・ベルギー(中立国)に侵入 . 8. 4 イギリス、ドイツに宣戦 . 8. 23 日本、ドイツに宣戦 タンネンベルクの戦い(独将軍ヒンデンブルク、露に勝利) . 8 マルヌの戦い(仏将軍ジョッフル、独の進撃阻止)
西部戦線膠着化	. 9 オスマン帝国 参戦(同盟国側) 日本、南洋諸島占領完了 . 10 日本、青島を攻略して膠州湾占領 . 11 日本、中国(袁世凱政府)に21か条要求 1915. 1 日本、中国(袁世凱政府)に21か条要求 . 4 イーブルの戦い(独軍、毒ガスを使用) . 5 ルシタニア号事件 イタリア参戦(連合国側 ←ロンドン秘密条約) . 10 ブルガリア参戦(同盟国側) 1916. 2～. 12 ヴェルダン要塞攻防戦(仏将軍ベタン、独の攻撃から固守) . 5～. 6 ユトランド沖海戦(英独海軍の交戦) . 6～. 11 ソムムの戦い(連合軍反撃、独軍死守) 1917. 2 ドイツ、無制限潜水艦作戦宣言 . 3 ロシア三月革命(ロシア暦二月革命)
ドイツの疲弊・後退	. 4 アメリカ合衆国参戦(連合国側) (P.242) . 11 石井・ランシング協定(～23) (34史) ロシア十一月革命 →ソヴィエト政権「平和に関する布告」 1918. 1 アメリカ大統領ウィルソン、「14か条の平和原則」提案 . 3 プレスト=リトフスク条約(ソヴィエト政権、独・澳と単独講和) . 9 ブルガリア降伏 . 10 オスマン帝国降伏 . 11 キール軍港水兵暴動 オーストリア降伏 ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世、オランダへ亡命 ドイツ、連合国と休戦条約

④ 第一次世界大戦中のヨーロッパ



Ⓛ軍需工場働く女性(アメリカ) 総力戦体制の中での女性の戦争協力は、大戦後の女性参政権確立など、女性の社会的地位向上につながった。(P.202)



Ⓛ西部戦線のインド兵(シク教徒) 大戦中、兵員不足に悩んだ英・仏・独は、植民地から多くの兵員を補充した。中でも英は、1917年以降約250万人を動員し、インドからは150万人が最前線などに送られた。



Ⓛ各国の戦死者数と戦費 (P.194写)

(「カラー世界史百科」平凡社)

国	戦死者数 (万人)	戦費 (億金マルク)
ドイツ	181	1940
ロシア	170	1060
フランス	139	1340
イギリス	95	2680



Ⓛ塹壕のフランス軍 マルヌの戦い以後、西部戦線は長い膠着状態に入った。

Ⓛ解説 日露戦争で使った全弾薬の量を1週間で消費したといわれる第一次世界大戦では、軍需物資優先による物不足や、軍需工場への女性の徴発などが国民の生活を圧迫し、総力戦の様相を呈した。

Ⓛ「国際スパイ」マタ=ハリ

第一次世界大戦は現代的情報戦の始まりでもあった。通信技術の発達で戦争の姿を変え、スパイ活動も盛んになった。オランダ生まれの人気ダンサーで、ジャワ島仕込みのエキゾチックな踊りで一世を風靡したマタ=ハリ。彼女はヨーロッパ各地を公演する中で、フランス要人たちの付き合いから重要情報入手できる立場にあり、ドイツのスパイとして利用された。フランスの軍部は、彼女を「世紀の女スパイ」に作り上げ、1917年に逮捕・処刑することで大戦下の国民の戦意高揚を図った。



Ⓛマタ=ハリ (1876～1917) (オランダ)

1 ヴェルサイユ体制の推移 (P197表)

ヴェルサイユ体制の成立	1918.1	「14か条の平和原則」の発表	国際協調の動き (P201表)
	.11	第一次世界大戦の終結	青字：ドイツ賠償問題
	1919.1	パリ講和会議 (~.6)	
	.6	ヴェルサイユ条約調印	
	.8	ヴァイマル憲法成立 (P242表)	
	.9	サン＝ジェルマン条約(対オーストリア)調印	
	.11	ヌイイ条約(対ブルガリア)調印	
	1920.1	国際連盟成立 (国際協調主義)	
	.6	トリアノン条約(対ハンガリー)調印	
	.8	セーヴル条約(対トルコ)調印	
国際協調主義の進展(相対的安定の時代)	1921.4	ロンドン会議(ドイツの賠償金総額1320億マルクに決定)	
	.11	ワシントン会議 (~1922.2)	
	1922.4	ラバロ条約 (独ソ国交回復)	
	.10	ギリシア・トルコ戦争終結(1919.5~)	
		ムッソリーニのローマ進軍	
	.12	ソヴェト社会主義共和国連邦成立	
	1923.1	フランス・ベルギーのルール占領 (~1925.8)	
	.7	ローザンヌ条約調印(セーヴル条約破棄)	
	.11	ヒトラーのミュンヘン揆	
	1924.8	ドーズ案成立 (支払い方法と期限の緩和・米資本の貸与)	
ヴェルサイユ体制の破綻	1925.12	ロカルノ条約調印	
	1926.9	ドイツ、国際連盟に加入	
	1927.6	ジュネーヴ軍縮会議 (~.8)失敗	
	1928.8	パリ不戦条約 (ケロッグ・ブリアン協定)	
	1929.2	ラテラン条約(ヴァチカン市国の成立)	
	.6	ヤング案発表 (賠償金総額を358億マルクに減額)	
	.10	ウォール街の株価大暴落(世界恐慌始まる)	
	1930.1	ロンドン軍縮会議 (~.4)海軍軍縮条約	
	.9	ドイツ総選挙でナチス第二党に進出	
	1931.6	フーヴァー＝モロトリアム(支払期間を1年延期)	
.9	柳条湖事件(満州事変勃発)		
1932.6	ローザンヌ会議 (~.7 賠償金総額を30億マルクに減額)		
.7	オタワ連邦会議 (~.8 スターリング＝ブロックの結成)		
	ナチス、第一党に進出		
1933.1	ヒトラー、首相に就任(ナチス政権の成立)		
.3	日本、国際連盟脱退 .10 ドイツ、国際連盟脱退		
1934.8	ヒトラー、大統領に就任 .9 ソ連、国際連盟加入		
1935.1	ドイツ、ザール編入		
.3	ドイツ、再軍備宣言(ヴェルサイユ条約破棄)		

2 14か条の平和原則

1. 秘密外交の廃止 (1918.1)
2. 海洋の自由
3. 関税障壁の撤廃
4. 軍備縮小
5. 民族自決の原則に基づく植民地問題の公正な解決
6. ロシアの完全独立と領土からの撤兵
7. ベルギーの回復
8. アルザス・ロレーヌの回復
9. イタリア北部国境の修正
10. オーストリア・ハンガリーの民族自治
11. バルカン諸国の回復
12. トルコ支配下の民族の自治
13. ポーランドの独立と海洋への出口保障
14. 国際平和機構の設立(国際連盟)

解説 ソヴェト政府の「平和に関する布告」(1917.11.8)に対して、1918年1月米大統領ウィルソンが発表した「14か条の平和原則」は後のパリ講和会議の基本原則となったが、その精神は各国の政治的利害の前に崩れ去り、国際連盟設立以外は実現されなかった。

3 ヴェルサイユ条約に抗議するドイツ民衆 (1919年6月2日ベルリン)



3 ヴェルサイユ条約(対ドイツ)

1. 国際連盟の設立 (1919.6)
2. フランスへ、アルザス・ロレーヌを割譲
3. ポーランドへ、ポーランド回廊・シュレジエンの一部を割譲
4. ザールを国際連盟の管理下に置き、帰属は15年後の住民投票で決定
5. ダンチヒを自由市(国際連盟の管理下)
6. 海外全植民地の放棄
7. ドイツの軍備制限(陸軍10万、海軍1万5千、艦艇36隻、潜水艦・軍用航空機の保有禁止)
8. ラインラントを非武装(ライン右岸50kmの地帯を非武装)とし、左岸は連合軍が15年間保障占領
9. 多額の賠償金の支払い(1921年4月、ロンドン会議で1320億マルクと正式に決定)

ヴェルサイユ体制の矛盾

国際協調主義 に対して

- 英仏の激しい対独復讐心による過酷なヴェルサイユ条約の締結
- ソ連への敵意と社会主義運動抑圧

民族自決主義 に対して

- アジア・アフリカの民族運動抑圧
- 民族分布を無視した新興の東欧諸国の国境線設定

ヴェルサイユ条約によってドイツが背負ったハンディとは、

- 民族自決の不適用(アルザス・ロレーヌ・ポーランド回廊のドイツ人)
- 天文学的数字といわれる賠償金
- 領土の減少(本国面積の13%を失う)
- 再軍備の制限(徴兵制禁止)などで、ドイツ人はこの条約のことを強い反感を持って「命令」と叫んだ。

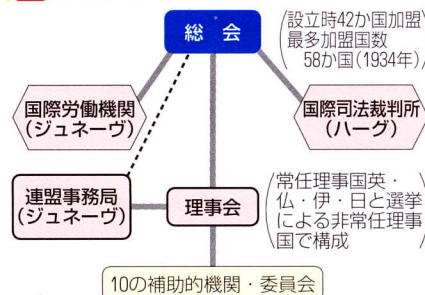


解説 ヴェルサイユ条約の調印 パリ講和会議に出席を許されなかったドイツは、条約内容に不満を示すが結局屈服。1919年6月28日、ヴェルサイユ宮殿「鏡の間」で調印。

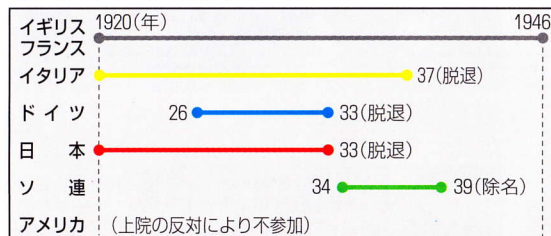
4 第一次世界大戦後の条約

対オーストリア (1919.9)	サン＝ジェルマン条約	1. オーストリア＝ハンガリー(二重)帝国の解体 2. 領内のポーランド・チェコ・セルブ＝クロアチア＝スロヴェン王国(→ユーゴ)・ハンガリーの独立と領土の割譲 3. トリエステ・イタリア・チロルのイタリアへの割譲 4. オーストリアとドイツの合併禁止
対ブルガリア (1919.11)	ヌイイ条約	1. トラキアをギリシアへ割譲 2. 領土の一部をセルブ＝クロアチア＝スロヴェン王国へ割譲 3. 大戦中に獲得したドブルジャをルーマニアに返還
対ハンガリー (1920.6)	トリアノン条約	1. オーストリアからの分離と完全な独立 2. スロヴァキアをチェコへ割譲 3. クロアチア・ボスニアをセルブ＝クロアチア＝スロヴェン王国へ割譲 4. トランシルバニアをルーマニアへ割譲
対トルコ (1920.8)	セーヴル条約	1. ダーダネルス海峡の非武装と国際化 2. アルメニア・ヒジャーズ王国の独立 3. メソポタミアとパレスチナをイギリスの委任統治領とする 4. シリアをフランスの委任統治領とする

5 国際連盟 (P216表)

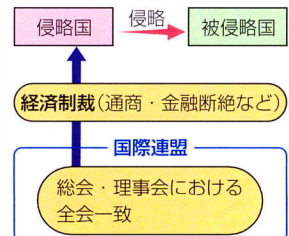


A 主要国の参加状況



解説 敗戦国ドイツと社会主義国ソ連は発足当初除外、アメリカもウィルソンの期待に反し共和党が優位を占める上院の反対で終始不参加。

B 集団安全保障のシステム



解説 制裁は経済制裁のみで、それも全会一致決議が必要であった。

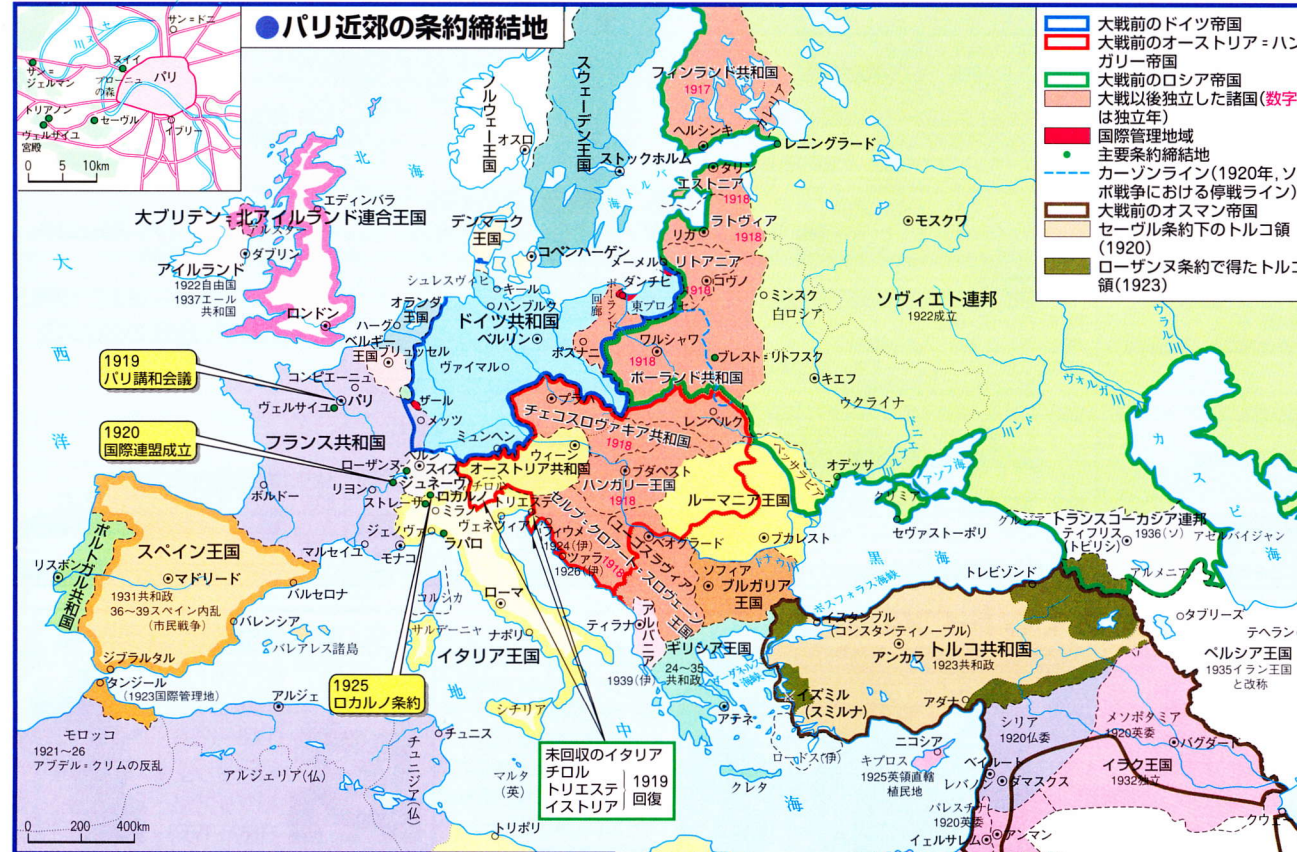
「国際連盟の父」ウィルソン

ウィルソンは国際平和機構の設立を盛り込んだヴェルサイユ条約の批准を議会に要請中に過労で病氣になり政界から引退した。しかし、勢力均衡にかわる新しい国際体制の原則として、集団安全保障の形成を主張し、植民地解放運動に影響を与えた彼は、1919年ノーベル平和賞を受賞した。



(任1913~21) アメリカ

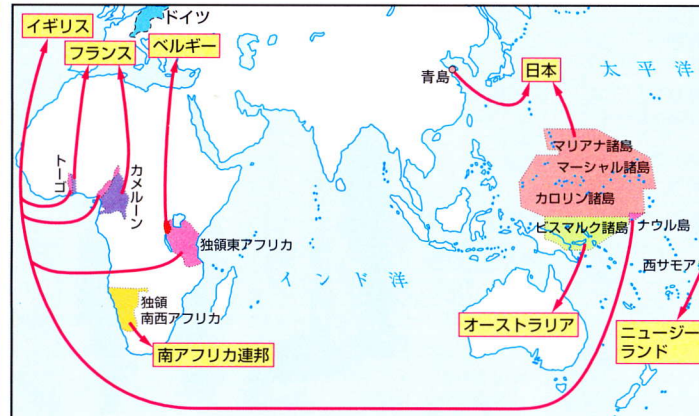
6 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ



7 大戦後のドイツ



8 ドイツの失った海外領土



9 国際協調の進展

青字：提唱者 赤字：参加国

国際連盟(1920成立)

米大統領ウィルソン
英・仏・伊・日(常任理事国) (米不参加, 当初独・ソ除外)
●恒久平和と紛争の平和的解決を指向する史上初の国際組織

↓

ワシントン会議(1921~22)

米大統領ハーディング
米・英・伊・仏・オランダ・ベルギー・ポルトガル・日・中
四か国条約 (米・英・日・仏, 1921)
→ 太平洋の現状維持, 日英同盟の破棄
九か国条約 (1922)
→ 中国の領土保全・機会均等・門戸開放
↓
●日本の中国政策後退
青島・山東省権益の返還など
海軍軍縮条約 (1922)
→ 主力艦保有率
(米: 英: 日: 仏: 伊 = 5: 5: 3: 1.67: 1.67)

↓

ロカルノ条約(1925)

独外相シュトレゼマン
英・仏・独・伊・ベルギー・ポーランド・チェコスロヴァキア
●ラインラントの現状維持(ライン左岸は連合軍の15年間保障占領, 右岸は幅50kmを非武装地帯)と相互不可侵
↓
●ドイツの国際連盟加入(1926) → ロカルノ体制

↓

ジュネーブ軍縮会議(1927)

米大統領クーリッジ
米・英・日 (仏・伊は不参加)
●仏・伊の不参加と米・英の対立で失敗

↓

パリ不戦条約(1928)

米国務長官ケロッグ・独外相ブリアン
米・英・仏・日など15か国 → 後に63か国が参加
●紛争解決の手段として戦争に訴えることはしない(ケロッグ・ブリアン協定とも呼ばれる)

↓

ロンドン軍縮会議(1930)

英首相マクドナルド
米・英・日 (仏・伊は不参加)
海軍軍縮条約
→ 補助艦保有率 (米: 英: 日 = 10: 10: 7)